

漢詩神奈州

第7号

神奈川県漢詩連盟

横浜市旭区中沢
3-39-9

電話045-361-2033

FAX045-361-2033

発行人 中山 清

編集人 田原 健一

継続は力なり！

～創立五週年に向かって～

会長 中山 清

年頭に当たって一言ご挨拶申し上げます。題に掲げた言葉は紋切り型の人生訓で申し訳ないのですが、お馴染みの方も多いのではと思います。私は若いころの研究生活で、ある化学誌に掲げられたのを読みましたが、他の誌でも読んだ記憶もあります。



今、漢詩作りを楽しんでいて、ふり返ってみますと、この言葉は漢詩作りに当たっているように思います。ではどうしたら継続でき

るのでしょうか。

いつかの本会の総会のおり、「大山・升田時代」といわれて活躍された、将棋の大山名人から聞いた話を紹介しました。「趣味に使う道具は許せる限りなるべく

高価なものを求めなさい。」と名人は言われました。その理由は、止められぬようにする、すなわち継続する為だと名人は言われたのです。

なるほどと私は思ったものです。神奈川県漢詩連盟のいろいろの行事は、会員の皆様の作詩力アップにつながるように、皆様が作詩を継続され、よい作品を遺して頂く為の刺激でありますことは申すまでもありません。どうか本会の企画いたします行事に積極的に参加されて、詩力アップの継続的努力に繋げて下さいますようお願い申し上げます。

漢詩大会などで優れた作品が発表されればそれがまた日本の漢詩界の向上に繋がりますことは申すまでもありません。幸いにも各大会の入賞作品にも本会会員の成果を有難く拝見しておりますし、昨秋の研修会に出された作品でも皆様方のご努力の成

果を垣間見ることが出来ました。

今年は、連盟創立5周年の期でもありません。記念の漢詩集を出せたらいいなあと役員間で検討中です。今まで漢詩実作をさばつておいでの方も含めて会員の多くの人にご参加頂いて、『百人百首』の詩集を年度末に発行できたらと思っております。休眠なさつておいでの方は、刀の錆びを拭つておいて下さい。今年秋口には募集内容をご連絡します。

また、会報の紙面は限られますが、漢詩にまつわる話題、提案などお気軽に事務局宛お寄せください。

本年も健康に留意して作詩をエンジョイしましょう。(終)

◆岡山県国民文化祭に参加しよう！

今年、第25回国民文化祭・おかやま2010が、岡山県浅口市で文藝祭「漢詩」大会として開催されます。前回のいばらぎ2008の大会から2年ぶりの国民文化祭です。水戸の大会大会では、特別賞14篇のうち、我が県勢は4人をも占め、神奈川の漢詩人強しという評判をとりました。今回も頑張つて、挑戦しましょう。

【募集要項】を同封します。締め切りは、本年6月30日まで。

◆ 上げ潮に乗って

副会長 岡崎 満義

神奈川県漢詩連盟は、上げ潮に乗っている。
 ・08年の総会後に開かれた懇親会で、石川忠久全漢詩連会長から「鷗盟創會僅三年／春夏秋冬稽古全／可看金河新様式／師生雲集滿詩筵」との賀詩をいただいて以来、いろんな歯車がうまく噛み合ってきたよ
 うな気がする。

・09年は春秋に新人入門講座、新人フ
 オローアップ研修会、選句方式のベテラン研
 修会、何よりも横浜開港150年記念漢詩
 大会を開催、成功裡に終えることができた
 のは、みんなの自信になった。特別賞五首は、
 石川芳雲先
 生一門の手
 になる書で、
 立派な掛軸
 となつて会
 場を飾るこ
 とができた
 のも、嬉しいことだった。懇親会では根津章
 伶さんの優雅な琴がみんなの耳を楽しませ
 てくれた。



今年三月下旬には、春の小田原城吟行会
 が予定されている。金沢文庫、円覚寺、鎌

倉大仏につづく吟行会で、毎回、五十名前
 後の参加者があり、今度も多数の参加があ
 りそうだ。

楽しかったことの一つは、秋に栃木県漢詩
 連盟との交流会が実現したことである。須
 永美知夫会長夫妻、石川郁三事務局長夫
 妻はじめ十数名が横浜にて神漢連会員と
 合流、散策後、中華街でなごやかに酒盃を
 傾けた。今秋は足利学校に遠征して、ふた
 たび栃漢連の方々とは旧交をあたためまし
 う、と約束した。

・10年1月7日、朝日カルチャーセンター
 湘南で、中山清会長の「はじめての漢詩つく
 り」全3回の講座が始まった。受講生が10
 名に満たないと講座が開かれないこともある
 と聞き地元の私は危機感を覚え、登録した。
 第1回の授業に出てみると、「生徒」は十
 一人の問題無し。すぐに3回では足りないか
 らと全9回に増えることが決まったようだ。
 こいつあ、春から縁起がいいわい、というこ
 ろ。「漢詩村」の村長さんという風情の中山
 会長の講座は、今後、ここに定着するのでは
 ないか、と希望が持てる状況である。更に「
 生徒」が増えてくることを期待している。

(終)



◆ 神奈川県勢 依然好調!

◎ 全日本漢詩大会 若林氏特別賞

我県も協賛した本大会で、期せずして
 「神奈川県漢詩連盟会長賞」が我県会員
 若林海司氏に決定した。中山会長が選ん
 だのが、たまたま小田原在住のこの人の詩
 であつた。始めたのが昨年からのこと、そ
 の才能たるや驚きの一語に尽きる。

陋巷中秋 白雨 若林 海司

陋巷黄昏若下帷 陋巷の黄昏 帷を下す若し

天沿狭徑月遐窺 天は狭徑に沿い 月遠く窺う

貧家亦有中秋夕 貧家も亦た有り 中秋の夕

蔽幌通暉睡二兒 蔽幌 暉を通して二兒の睡る

すべて実景で、「幸せな貧乏」という事を

頭において作詩されたとのこと。アパートは

さすがに藤沢周平風の長屋にアレンジさ

れた由。カメラが陋巷を、パンフォーカスする

が如き様、見事。

その他の入賞者の方は、

秀作 「月面探查」 石川省吾、「読書偶

感」 小林栄一、「月明竹逕」 三村公二

佳作 「月下山櫻」 酒井謙太郎

「陽春遍」花田裕、「偶成」水城まゆみ

入選 「仲秋賞月」高津有二

◎ 新潟大会 大勢入賞 12名

新潟県三条市で行われた諸橋轍次博
 士記念漢詩大会では、神奈川県勢は特
 別賞に山内大五氏が最高齢入選者賞を

受賞、入選は13首11人の多きになりました。我県から14人が応募されての12人ですから水準の高さが判ります。亦、県別の応募者で見ても14人は地元の新潟を除くと4位、我が県勢の意欲を示すものです。入賞者名は省略します。

◎ 多久大会 城田氏三年連続優秀賞

佐賀県多久市の平成21年度「全国ふるさと漢詩コンテスト」では、城田六郎氏が三年連続の優秀賞に輝かれました。勿論匿名の選考の中でのこと、めったに起こる事ではありません。実力のしからしむる処と敬意を表します。結句が良い。

その他、古田光子さんも入選、三条市の表彰と違い入選でも僅か3首限りの厳選のなかでのこと、蕎麦の花と月の組み合わせに感服です。

田園晩秋 城田 六郎

秋社濁醪勞苦忘 秋社の濁醪に勞苦忘る

黄雲刈盡已新霜 黄雲刈尽し 已に新霜

空田獨立案山子 空田独り立つ案山子

紅髮翠眉時世粧 紅髮 翠眉の時世粧

秋夜思郷 古田 光子

半夜山郵涼氣加 半夜の山郵 涼氣加わる

蟲聲唧唧坐思家 蟲声唧唧 坐るに家を思ふ

如今應看西郊畔 如今応に看るべし西郊の畔

月下皚皚蕎麦花 月下皚皚たる蕎麦の花

◆ 交流会余話：感謝を込めて：

栃木県漢詩連盟 事務局長

石川 郁三

神奈川県漢詩連盟の皆様、まづもって横浜開港百五十周年記念漢詩大会の大盛会、誠におめでとうございます。そして、11月8日の交流会では大変お世話様になり、本当に有難うございました。

あの日、私達栃木県漢詩連盟の面々は、約束の「10時30分、横浜駅東口」に向かつて、宇都宮、小山、足利からそれぞれ出発した。須永会長夫妻を始めとする私達足利班8名は、久喜駅でトイレや移動に時間をとられ、予定の湘南ライナーに乗り遅れてしまった。次の電車は50分後であった。細かい経緯は省略するが、結局、栃木県連会員全員が、田原さんをはじめとするとする7名の神奈川県連の方々と合流できたのは、正午少し



前となり、見学コースの変更をせざるをえない仕儀となった。

ベイクオーターからシーバスに乗り、MM21、赤レンガ倉庫等を経由して山下公園へ着いた。海無し県の我々は、潮の香りや鷗の群れに興奮した。さすが同好の士、すぐに打ち解けて、それぞれ談笑しながら山下公園を散策した後、馬祖廟、関帝廟を見学して、中華街にある京華楼へ入った。待っておられた中山会長、岡崎副会長と合流、二つの円卓に自然に県の区別なく着席し、和気藹々、飲んで、食べて、語り合った。反省すべき点もあつたが、本当に愉快地に意義深い時を過ごさせていただいた。

中山会長をはじめ、嫌な顔一つ見せず待つて案内して下さった田原さんと7人の会員の皆さん、私のリクエストに応じて貝殻節を披露くださった岡崎副会長、事前に資料を送って下さりアドバイスを頂いた桜庭さん、夫々の皆様に感謝を申し上げます。

約束ですよ！今年秋には足利へ大人数できてくださいね。

最後に拙詩を記し御礼とさせて頂きます。

横浜交流会

秋日相尋盟友郷 秋日相い尋ぬ 盟友の郷

同舟大廈映波光 同舟すれば大廈波に映じて光る

酒樓小集歡何盡 酒樓の小集 歡 何ぞ尽きん

来歳再期遊利陽 来歳 再び期して利陽(足利)に

遊ばん

(終)

◆研修会に参加して

城田 六郎

秋の研修会は参加者多数のため、2グループに分かれ、私は十一月十九日のBグループに属し、応募作品は二十一篇あった。今回も前回同様「選句会方式」が採用されました。事前に作品のコピーが配布されてましたので、十分熟読吟味して入選作三〜四点を選び出すわけですが、私の選定基準は次のとおりです。

1. 起承転結の明確なもの。
2. 詩句のリズムが整っているもの、つまり読み下してみても「こつこつした感じのないもの」
3. 結句がその役割を果たしているもの

今回は前回に比べ実力が伯仲しているせいか、特選を選ぶかわりに佳選四篇を選ぶ人が多く見られたように思える。「選句会方式」は誠にスリル満点である。自分では力作のつもりでも、一票も入らないのではないかという不安があり、板書された結果を見てほっと安堵する始末である。

各人は自分の選んだ作品について、選定理由などを述べるわけですが、寸鉄人を射るような鋭い指摘は容易にできるものではないが、他人の作品を鑑賞することは大

いに勉強になる。

また、集計の結果、得票の多い順に自分の作意その他を簡単に説明していく訳ですが、その間に質疑応答も遠慮なく行われ、これによって自分では気の付かなかった点も指摘され、研修の成果が挙がったように思われる。

今回の作品二十一篇のうち、季節の秋に関するものが十篇を占めており、相互の比較検討が可能であった。いわば同じ土俵での勝負である。そこで提案したのは、次回課題を出して競争することも一度試みたら如何でしょうか。同じ題材であり、自分の知力を振り絞って作句することが、自分の未熟な点、他人の上手な表現を学ぶ上で有効ではないかと思考する次第です。

(終)

秋の研修会の作品から

今回の勉強会の中から、A、B各グループの最高得点作をご披露する。

Aグループ作品(16篇参加 11点獲得)

『醒寤偶成』

三橋 凜也

西窓夢覺夕陽紅 西窓 夢覺むれば夕陽紅なり

吟哦啜茶残暑空 吟哦して茶を啜れば残暑空なり

世事鑿嘗貧亦好 世事嘗め鑿くれば貧も亦好し

機心已棄苦甘同 機心已に棄つれば苦甘同なり

三橋氏談

びつくりしました。会長始め偉い先生をさしおいて選ばれるなんて。光栄です。今後の大いなる励みになりました、

Bグループ作品(21篇参加 14点獲得)

『喀什白雨』

桜庭 慎吾

俄近雷公雨打瓢 俄に近づく雷公 雨瓢を打つ

覆盆里巷忽驟然 覆盆の里巷 忽ち驟然

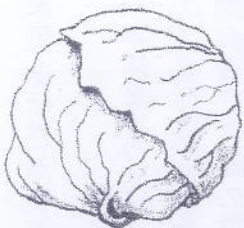
頑童喜沐檐端水 頑童 喜びて沐す 檐端の水

村叟笑言伊好天 村叟 笑つて言う 伊れ好天と

桜庭氏談

有難うございました。

数年前シルクロードの旅で、トルファンからクチャ、カシュガルと辺塞詩の誕生地を歩きました。カシュガルの食堂にいる時、ピカッと電光が走り、忽ち大粒の雨、街路には濁水が溢れました。地元の人はず数年ぶりという大雨に大喜びでした。そのおりの光景を詩にしてみました。



◆『好文会』の発足

世話人 高津 有二

神奈川県漢詩連盟の第三回初心者入門講座は、昨年四月から六回の講義と十月のフォローアップ研修をもって一区切りとなりました。研修終了時にご指導頂いた先生方の共通のお言葉が「漢詩の上達は継続した漢詩作りしかない」というものでした。

中山会長、田原事務局長のお勧めもあって僭越ながら私だち三人（瀧川、久川、高津）が勉強会の立ち上げについて声をかけましたところ、十三名の方々のご賛同を得て、参加して頂くことになりました。

勉強会は偶数月の第三木曜日に開催することとして、漢詩を主テーマに自由闊達な意見交換と会員相互の親睦を図ることを目的とすることにしました。

会の名称は、徳川斉昭の「弘道館賞梅花」の転句から好文の言葉を拝借して『好文会』と名付けました。また、漢詩連盟から城田六郎、桜庭慎吾の両先生のご指導を頂くことになりました。

第一回の『好文会』は十二月十七日（木）に近代文学館で十二名の会員と両先生にご参加いただき開催しました。

各人が予め提出した漢詩を事前に両先

生に見て頂き、当日は一首ずつ懇切なるご指導を頂き、和気藹々のうちに大変有意義な勉強会のスタートが切れたと思っております。

昔から漢詩作りの上達には「三多」が必要と言われており、即ち「名漢詩を数多く読む」、

多作「漢詩を数多く作る」、多推敲「作った漢詩を何回も直す」の三多です。この『好文会』がこの三多の実行にすこしでも

役立つことになり、会員一人一人が漢詩作りの上達に向かつて邁進することができれば幸いですと考えています。

今後とも、城田、桜庭両先生はもとより、漢詩連盟の諸先生方が第三期生に対して、厳しい中にも暖かいご指導を頂くことをお願いして『好文会』発足の「報告戸致します。

（終）



◆「黒白を、

忘れて、時に五七五」

磯野 衛孝

近頃急に増えたと言われます、漢詩なるものを始められた由、結構。

「ひまありて、老化防止や、紙と筆」

そこで一言、悩みの言。

なにはともあれ、平仄と二四不同、二六対をマスターしても、

「風景を、百首作つて、半人前」

百はなかなか作れない、そのうち、「詩は

志を言う」とか小耳に入り、

「力作も、それは説明、詩ではない」

又、

「和語造語、うさんくさいと、天の声」と大変です。時には先生の手直しがない。

しめたと思えば、

「朱筆なし、ああそうですか、ふり出しへ」とこんな毎日です。

「黒白を、忘れて春の、梅見かな」

今回はこれにて。

五七五郎

五七五郎



◆吟詠の世界を訪ねて

岳精流日本吟院訪問記

水城 まゆみ

旧臘二四日、川崎市砂子にある、全国各地に根をはって、傘下の会22教場数37を誇る岳精流日本吟院を訪問した。

宗家の横山精真さんはわが県連の創立時からの会員で研修会や新人研修にも積



極的に参加協力されており、一度吟詠の道場はどんなものなのか興味があつての訪問である。残念ながら吟詠練習の場は年末で終わっていた。昭和の薫りの感じられるビルの一画、家元の横山岳精氏にもお目にかかったが、今年ですでに吟道75周年、

来年の道場訓の揮毫の最中であつた。「真善美」の扁額の下には吟剣詩舞道大会での優勝トロフィーもまたこの吟院の歴史を物語っていた。

ご子息で宗家の横山氏に伺つた。吟詠の世界も放っておくと人が減る厳しい世界で、絶えず会の活動の充実を心掛ける必要がある由、流統の発展は指導者の育成に掛かっている、指導者になつてほしい、教えることは学ばせてもらうことと判つてほしいといつも幹事さんに話しているとのこと。

そうした苦勞をしている立場から、神奈川県漢詩連の状況を見ていると、縦(活動内容)横(普及)両方とも大事で理事の皆さんのご苦勞がわかる由。吟をやる方の漢詩との拘り方も人様々、あまり押し付けは出来ず、機会あるごとに吟詩の自身の解説は心掛けていかか会報で紹介する程度で会員増強に協力出きず申し訳ない。むしろ今、漢詩連にお願いしたい事は漢詩をやる個人として研修の機会を増やしてほしい、半年に1回では修行にならない、県連で無理であれば吟社というか漢詩の小さな集まりを作つて、我々を紹介してほしいとのことであつた。

吟詠会の様々な運営努力の話に刺激され、私どもの力の入れ具合もまだまだだなど同行の田原さんと、川崎の師走の街を首うな垂れて帰つてきた。

(終)

◆お知らせ

中山会長 漢詩教室講師に!

今年1月から朝日カルチャーセンターの湘南教室で漢詩の入門講座が開講し、わが県連の中山会長が講師として登用されスタートした。『はじめての漢詩づくり』と言う講座で、もう一度漢詩実作に挑戦してみようという方にびつたりです。宜しければ、受講しませんか。場所はJR藤沢の駅ビルのなかで便利。

受講希望者は、朝日カルチャーセンター 湘南(TEL0466・24・2257)に問い合わせして下さい。

◆新刊紹介

▽石川忠久先生の「漢詩人 大正天皇」その風雅の心が大修館書店より発売された。大正天皇は、歴代の天皇の中でも最も図抜けた漢詩の才能との評価、なるほどと頷ける内容である。

▽阿藤伯海 漢詩集『大簡詩草』複製版、今年度の国民文化祭開催の岡山県漢詩連盟が、開催地浅口市出身の大詩人阿藤伯海の『大簡詩草』詩集を記念発行したいと言うことで予約販売をしている。

定価 900円 申込期限 今年3月末。

問合せ先 (財)吉備路文学館内 岡山県漢詩連盟事務局

Fax 086-223-7418

◆漢字こぼれ話

酒井 謙太郎

漢字はなかなか難しい。「謝」という字を辞書で引くと、次のように意味が多い。

一 告げる(告) のべる(述)

二 あいさつする、礼を言う「感謝」「謝礼」

三 わびる、あやまる 「陳謝」「謝罪」

四 ことわる、辞退する 「謝絶」

五 去る、辞職する 「謝病」

六 散る、死ぬ 「花謝」

七 しぼむ、おとろえる 「新陳代謝」

かなり異なる意味を含み、とまどうこともある。

たまたま読んだ李白の詩の二例がある。

この場合の「謝」は、それぞれどんな意味でしょうか？(答えは文末に)

宿五松山下荀媪家

「令人慙漂母 三謝不能飡」

人をして漂母に慙じ、三謝して飡ふ能はざらしむ

江南春懷

「歲晏何所從 長歌謝金闕」

歲晏れて何の従う所ぞ 長歌して金闕に謝せん

更に漢字のもつ微妙な語感、語意となる

と本来は外国の文字だけに一層難しい。最近、詩友田原さんの推奨により宇野

哲人江原正士共著「李白」を読んだが、この面でも裨益されることが多かった。

「一片」は一定の広がりのある空間、「一片の雨」は一面の雨で「落花一片」はある程度のたくさんはらはら散る花、片雲、片帆もこのように解釈すべきという。

「相」は相手がある時動詞の前につけるが、必ずしもお互いではない、「相思」はお互いに相思相愛の場合もあり、片思いもある。

「遊」は日本語の「遊ぶ」のニアンスと違って自由にとらわれない行動という意味。

「自ら」は自分は自分で自分なりにの意味。

「美人」は男にも女にも使う。君主や賢臣を指す場合もある。

「紫」は赤茶色で、紫騮は栗毛の馬。

「蒼」はあおぐろく灰色に近い感じ、「古色蒼然」「蒼顔」などの使用例からみて青いではない。

以上はその一端だが、他にも眼からうろこが落ちるような見方が多い。この本は演劇人江原さんとの対談の中で、李白の境涯や心境の変化を詩の鑑賞を通じて語る形をとっており、従来の詩書にない新鮮な持ち味がある。

横浜教室の窪寺啓先生は「辞書は引くものでなく読むものだ」と言われたことがある。間暇があれば辞書を読み尽くし漢

字に迫ればと思うが、その境地にまではなかなか辿りつき得ず遠い。そんな私だが、漢字の持つ奥深さを楽しみながら詩作を続けたいと思っている。(終)

【答え】

一、何度もお礼を言う

二、官中にはお別れしよう(引退して)

◆杜甫の詩

螢火

杜甫

幸因腐草出 幸に腐草に因り出ず

敢近太陽飛 敢えて太陽に近ずきて飛ばんや

未足臨書卷 未だ 書卷に臨むに足らざるも

時能點客衣 時に 能く 客衣に点ず

隨風隔幔小 風に随いて 幔を隔てて 小さく

帶雨傍林微 雨を帯びて 林に傍いて微かなり

十月清霜重 十月 清霜 重し

飄零何處歸 飄零 何処にか 歸する

今年の入試センターの国語の問題の一部は、この杜甫の詩を解釈せよと言う出題であった。十月の螢の寄る辺無くさ迷う様を、旅の自分と重ね合わせている風のことである。

埋草のためで、杜甫には失礼だが、浅近易明の詠物詩から勉強すべしとの黄子雲の詩話の例として、この詩が挙げられている。(編集後記もご参照)



◆起承転結ままならず

森本 英之

動機不純で始めた漢詩だが、悪戦苦闘している。朝日カルチャーセンター横浜の「漢詩―実作と鑑賞」で同席の方がたは先刻ご承知のことだが、この歳になって、マゾっ気があつたのか、と喜んで恥の上塗りを曝すことにする。

新聞記者三十年。退職後、岐阜大学工学部のセミナー「日本語発表技法」で学生諸君と切磋琢磨する機会を得た。『理科系の作文技術』（木下是雄著、中公新書）は、「ニュースの核心から書き出す新聞記事が参考になる」としながら「起承転結」は不用とある。

だが、文中に「いったん立場を変えて問題を吟味し、その上で結論をまとめる」と実質的に「転」の必要性を認めている。工学部の学生にも「論文に起承転結は必須である」と強調し、杜甫の絶句を紹介した。

(起) 兩箇黃鸝鳴翠柳

(転) 總含西嶺千秋雪 (結) 門泊東吳萬里船

(承) 一行白鷺上晴天

起句と承句に対句があり、この二句で上空を描写する。転句は一転して目を地上に向けて、結句を導く。私流の図解だが、三角形になる。テレビ塔や鉄橋に使われる堅固な構造である。対句は論文ならキーワードである。

講義の最後は「DNAの構造」の発見過程を紹介した。二重螺旋で、塩基のアデンとチミン、グアニンとシトシンが対になり、写真のポジとネガの関係である。話しながら「これって七絶ではないか」と思った。ワトソン・クリックが漢詩を意識したはずはない。だが、何か通じるパターンが自然や物理現象には潜んでいるものだ。マンデルブロのいう大小規模の相似、つまりフラクタルがあり、比喩になり、アナロジーともなる。

徒ら心から漢詩にしてみたいとおもった。三十年来の友人の岡崎満義さんに作品を送ったら「平仄も脚韻もむちゃくちゃ。とても手に負えない」という返事と、テキスト『詩語完備 だれでもできる漢詩の作り方』を進呈された。それじゃやってみるか、となった。

これまで(十一月二十日現在)、二十七回提出してプリントに掲載なしが八回、掲載されたが、訓んでもらえなかったのが二回、掲載順1番が十一回、二番が3回、三番が1回、四番目が三回である。

「自然の風景を詠じられたし」と何度、朱が入ったことか。私もしばしば自然から詠み

はじめめる。添削を繰り返していると、変化していく。社会部記者の性か。「人生は落下速度」も読んでもらえなかったが、端緒は銀杏が落ちていたところからだったが……

炎蒸一掃共台風 樹下三三白果豊
歳歳年年實相似 齡重倍速落行同

「炎蒸一掃、台風と共に、樹下に三三、白果(銀杏)豊か、歳歳年年実は相似たり、齡を重ねる速さは二倍、落下速度に同じ」評はただ、「意不通、添削不能」だった。これも訓んでもらえなかった例だが、

「歌頌田口博士研究」

熊貓食竹糞量同 細菌餐糞縮縮窮
垃圾分離將適用 詼諧實驗似拘鴻

パンダは笹を大量に食い、消化せずほぼ同量の糞をする。しかし、糞中の細菌が発酵して糞を十分の一に減量する。生ゴミの処理に応用する愉快な実験で博士は鴻(イグ・ノール賞)を獲得した。

プリントが配布されるや「クスツ」と、笑いが漏れることがある。講師から無視されようと酷評されようと、掲載の最初は概ね私の作品だから「やった！」と密かに思う。レストランで食事の時、酒井謙太郎さんから「現代の事象を詩にするのは余程の知識が必要だよ」と諭されながらも「次回を楽しみにしているよ」と言って下さった。「クスツ」とともに大いなる励みである。

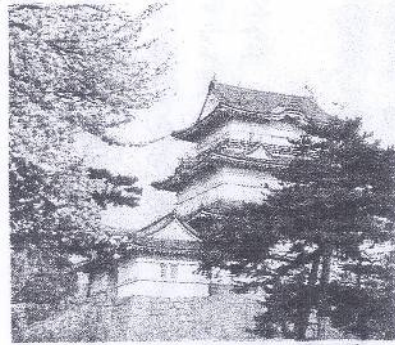
(終)

吟行会のお知らせ

櫻花爛漫の3月30日、

小田原城を訪ねよう！

恒例の神奈川県漢詩連盟主催の吟行会、今回は桜の名所の小田原城を訪ねます。春陽溢れる湘南の名勝を巡り、櫻花を堪能しましょう。



櫻花の小田原城 (小田原ガイド協会より転載)

吟行会の内容

日時 平成22年3月30日(火)

午前10時30分

集合場所 JR小田原駅 2階南側、

二宮尊徳像の前に集合

(JR小田原駅の改札口は3階です。南側のエスカレーターまたは階段で2階に降りて下さい。連盟の幹事が待っています。)

周遊行程 約2時間半のコース散策です。

小田原駅→北条氏政、氏照の墓→小田原城内→天守閣→歴史見聞館→二宮神社 (順不同)→昼食会場へ

散会は、午後3時半の予定

☆昼食 料理屋『だるま料理店本店』

(建物は登録有形文化財だそうです。)

☆柏梁体 柏梁体の一句は、韻字と用紙を集合時に配布、散策の途中で作って下さい。昼食後、石川忠久先生の選で優秀作を披露します。

☆参加費 5千円 (入場料及び昼食代)

☆申し込み 同封葉書又はメールにて返事。

申込期限 平成22年3月20日(土)

メール mmizuki@kfz.biglobe.ne.jp

水城まゆみ 宛

世話役 桜庭慎吾 記

小田原 広瀬 林外

八州草木仰威風 八州の草木 威風を仰ぐ
百二山河形勢雄 百二の山河 形勢雄なり
詩客却追当日迹 詩客却って追う当日の迹
閑行一劍入関中 閑行 一劍 関中に入る

小田原城は、鎌倉の北条氏が亡びた後、百五十年を経て、北条早雲(いわゆる後北条氏五代)がここを居城にして関東八州を傘下に収め権力を振るった所である。

この詩は、前半で八州、百二と北条氏の威勢を大きく詠い、後半は閑行一劍ひっそりと箱根の関所に入っていく自分を卑小、対照させた処に味がある由、石川忠久先生が「かながわ漢詩紀行」で述べておられる。

◎皆さんへのお願



漢詩作りの勉強また始めませんか。

お友達を漢詩作りに誘って下さい！

今年もまた四月から第4回目の「初心者入門講座」が始まります。

ついては、漢詩の鑑賞から実作へ進みたいというご意向の方、或はもう一度勉強し直してみようとお考えの方、始めませんか？亦、お友達やお知り合いの方をお誘い頂き、一緒に漢詩作りをトライするのも楽しいことと思います。ぜひ、ご自分で参加なさるか、お友達を紹介してください。

ご承知のとおり、我神奈川県漢詩連盟の生命線は新人育成にあります。新しい人の活動や活躍が旧人に刺激を与え連盟の活力を高めています。1期生の「金星会」、2期生の「三水会」、3期生も去年暮「好文会」としてスタートしました。どの会にも、再度トライなさった旧人が入っておいでです。教えることで勉強なさっています。新旧一緒に学ぶと言う雰囲気があります。

中山会長の講義も快調で判りやすく、我々理事のグループ指導も優しく厳しくその効果を挙げつつあると自負しています。お気軽に事務局まで、電話なり葉書なりご連絡ください。(田原)

今年の春のスケジュール

カレンダーに予定を記入しましょう。

● 年次総会 第5回年次総会は、例年通り記念講演と懇親会をかねて実施します。

▽ 時期 平成22年5月14日(金) 午後1時～3時半

▽ 場所 神奈川近代文学館 2階ホール

▽ 記念講演 石川忠久先生「花を詠んだ詩」(仮題)

▽ 懇親会 ホテルポートヒル 3階ホール 午後4時～6時 会費5千円

別途、当方より3月下旬に葉書にて出欠を頂く予定です。

● 研修会 従来と同じ「選句会方式」で、2グループに分けて実施、都合のいい日を選んで下さい。

▽ 時期。Aグループ 平成22年6月16日(水) 午後1時～5時

Bグループ 平成22年6月24日(木) 午後1時～5時

▽ 場所 神奈川近代文学館 2階会議室

▽ 詩稿提出期限 平成22年5月末日(月)事務局あて。 詩期日厳守のこと。

● 初心者入門講座 第4回目の講座を例年通り実施します。

漢詩の実作は始めての方、或は、もう一度勉強し直してみようとお考えの方、お友達と誘い合わせてトライするのも一策。奮ってご参加下さい。

▽ 時期 平成22年 4月13日(火)、4月27日(火)、5月11日(火)、5月25日(火)、

6月8日(火)、6月29日(火)、計6回の授業 午後1時～4時

▽ 場所 神奈川近代文学館 2階会議室

▽ 講師 中山清会長 他

▽ 申込 葉書にて事務局あて申し込む。 申込期限 平成22年3月31日(水)。

● 吟行会 今回は早春の小田原城周辺の散策です。詳細は7頁記事を参照。

▽ 時期 平成22年3月30日(火) 午前10時半～

▽ 場所 JR小田原駅東口 中2階 二宮尊徳像前に集合

▽ 申込 同封葉書にて返事する。参加費 5千円 申込期限 平成22年3月20日(土)

◆ 編集後記

▽今年の大学入試センターの問題が、先日新聞に載っていた。国語の問題は4問、そのうちの4番目は漢文漢詩が内容の問題であった。早々にトライしてみた。多寡を喰っていたら、50点の満点に対し36点のさま、漢文の素養の無さを改めて思い知った。それはそれとして出題の中身、内容に偉く感心した。

黄子雲『野鴻詩的』の詩話が問題である。

要は、詩を学ぶ者は、宋代、明代の詩や晩唐の詩は色んな前の時代の影響を色濃く受けているので最初は避けた方がいい、後で杜甫の詩に学ぼうと思っても、道に迷うだけで、泰山(詩の巔)には辿り着けないとのこと。

杜甫の五律の中で、浅近易明の詠物詩を反復尋繹すれば、心目、明らかに、入口で患うことは無い、として、「天河」「螢火」「初月」「画鷹」「端午賜衣」の5編を例示している。

華を求め奇を衒いがちな吾が身を振り返って、なるほどと思った。李白杜甫の盛唐の詩に原点を置くべしとの主張が、迷い悩みの彷徨える凡人にはひととちえる。例示の5編を探し出し、啾哦してみたが、十年の習癖、改まらず、今も面白い題材はないかとキョロキョロ、道遠しである。

▽その類の吟社での話、次の兼題は『小沢一郎』にしようとの冗談が出た。密かに作ってみたが、怪物風の描写になり、破棄した。悪役の哀しさを人に見せない処が良いと思うのだが。(田原)